

# Summer School in Finland

## 概要・避難所運営シミュレーション

千葉大学 駒形 朋子

# MSc Disaster Health Care University of South Wales



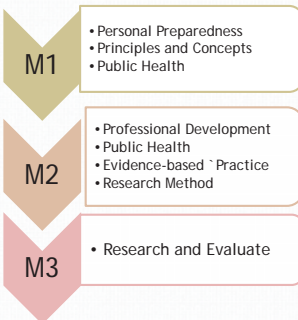
<http://courses.southwales.ac.uk/courses/319-msc-disaster-relief-healthcare>

- ❑ 複合的な災害に対する人道的支援における、ヘルスケアに係わる理論と実践を学ぶ。国際的な、異文化への対応を重視
- ❑ 3年間のE-learning+サマースクール（2週間/毎年）+災害地域での実習/研究（12週/3年生）
- ❑ 入学者：保健医療/社会福祉職、コミュニティヘルスワーカー、NGO職員、軍関係者等→国際赤十字等の国際機関、英国政府、軍隊、国際NGOの災害現場で活躍する人材を多く輩出している。
- ❑ 多専門領域の国際的な災害現場で経験をもつ教員

## カリキュラムの特色

### コンピテンシー開発

### ポートフォリオ開発



### Reflective Practice

- **Simulation/Survival Training**
- **Practice Based Learning**
- Field Experiences

2011

## Summer Schoolの位置づけ

- ❑ 1996年企画開始

HAMKとUniversity of Ulster（北アイルランド）教員が中心となり、EUソクラテス/エラスムス・マスター計画による補助金(1996～)を得て開始

- ❑ 2001年のコース開講当時より、summer schoolはプログラムの中核（当初は3週間）
- ❑ WalesとFinland(HAMK:協定校)で隔年実施

## 開催地

### Hameenlinna, Finland



- ❑ EVO国立森林公園：国際的にも有名なハイキング場
- ❑ ハメリンナ（ヘルシンキからバスで約1時間）市内
- ❑ HAMKのキャンパスあり



## 2, 3年生用状況設定

- ❑ Hamelandiaにて、M7.0の地震が発生し、多数の被災者が出ている。津波の恐れもある。
- ❑ 死亡率、有病率は現在のところ不明
- ❑ 冠水や土砂崩れなどで道路が崩壊・遮断されている。
- ❑ 通常の治安は悪くない。
- ❑ 学生はHAMCというNGOの職員として、人道支援活動を行う設定。
  - 3年生（5名）がリーダー役：全体主/副責任者、危機管理担当、診療所運営、避難所管理
  - 2年生（7名）は3年生の指示のもとチームメンバーとして活動

## Day 1: 派遣前準備

- 情報収集、地図、携帯電話、無線機等のセットアップ
- テント、諸物品、キャンプ中の食糧の配布
- メディア対応：BBC、地元の新聞
- 関係機関への面会：保健省、地元の役所、赤十字、保健所の災害対応担当者

\* 教員がメディアや関係機関職員に扮し、情報を与えたり厳しい質問をする。



## Day 2: フィールドへの移動

- Sairio からEvoに移動
- 学生：テントを張り、滞在場所を確保
- 診療所設置場所の選定：グループで森に現地調査へ
- (教員が扮する) 地元役所等の責任者との面会
- 危機管理担当を中心に安全確認、避難場所の確保
- 全体リーダーより、今後の計画ブリーフィング



## Day 4: Cluster Meeting

- Local RC, NGOs(Oxfam, MSF, local NGO WANGO), 軍のコマンドーとHAMCが参加：全体リーダーの3年生のみ  
HAMCの立場で、他の学生は様々な利益相反する団体役
- 各団体が情報を出し合い、general informationの確認
- コマンドーからの厳しい質問  
「どうやってやる気なのか？」  
「どのぐらい活動できるのか」「予算はあるのか」
- それぞれの団体の活動趣旨が異なるため、何を優先するかで議論が紛糾
- 最後に教員から議論のまとめ方や活動の方向性への示唆

## 最終日：今後6週間の活動計画立案



## 2,3年生での学び

- 国際チームでの緊急人道援助のリアルなシミュレーションが学べる
- 西洋的なリーダーシップ、チームワークにふれ、実感できる
- 英語力、基本的な知識は必要
- 同級生との関係作り＝英国やフィンランドで災害に携わる者同士のネットワークが構築できる

